

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
札幌情報未来専門学校	昭和45年4月1日	小林 仁	〒 060-0005 (住所) 札幌市中央区北5条西13丁目1番地 (電話) 011-231-7085																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人桑園学園	昭和36年12月28日	小松 妃呂美	〒 060-0005 (住所) 札幌市中央区北5条西13丁目1番地 (電話) 011-221-3938																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	ITシステムエンジニア学科	平成6年度	—	平成26年度																													
学科の目的	ITシステムの設計、開発、運用までの知識・開発技術や情報メディア系の制作技術を学び幅広い専門技術を身に付けた総合的かつ実践的なITシステム開発技術者/クリエイターを育成する。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	3年課程によりITに関連する幅広い技術を学び、社会の中核となるITエンジニア/クリエイターを目指します。学習方法は、全体の7割に及ぶ実習や演習を中心に行い、試行錯誤しながら正解を導き、学ぶことで実践力と総合力を身に付けます。資格は、各種関連するIT系民間資格を在籍中に取得指導を行っています。国家試験の基本情報技術者は、一定の条件のもとで、科目Aの免除を受けられます。このような教育システムにより退学率は、3%と抑制しています。																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入 2,700 単位時間 120 単位	1,110 単位時間 74 単位	1,860 単位時間 87 単位	720 単位時間 24 単位	— 単位時間 — 単位	— 単位時間 — 単位																											
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																													
60人	103人	0人	0%	3%																														
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 39 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 38 人</p> <p>■就職者数(E) : 37 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 28 人</p> <p>■就職率(E/D) : 97 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 76 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 95 %</p> <p>■進学者数 : 0 人</p> <p>■その他</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ㈱システム、㈱メテックフィルタース、㈱プランジスタソリューション、㈱N. ジェン、㈱エイチ・エル・シー、㈱リノシステム、㈱システムレイ、㈱Olivier、シグマインキュベーション㈱、㈱エスランド、㈱クラウドイノベーション、㈱アブリッジ、㈱明円ソフト開発、㈱テクノプロ・テクノロエンジニアリング社、エイビット㈱、㈱トリムキャリア、ニュートラル㈱、㈱アウトソーシングテクノロジー</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有る場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.sapporo-mirai.ac.jp																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,690 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,140 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>185 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>15 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>54 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>9 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>						総授業時数	3,690 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	300 単位時間	うち必修授業時数	1,140 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	180 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	185 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	15 単位	うち必修単位数	54 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	9 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位
総授業時数	3,690 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	300 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,140 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	180 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総単位数	185 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	15 単位																																	
うち必修単位数	54 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	9 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に専事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に専事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に専事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																	
計	4人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校の教育理念である「社会の支えとなる情報利用技術における幅広い専門知識と高度な技術を修得せしめ、これからの情報社会の中核となる有能な人材を育成する」をもとに、国や北海道のIT企業のニーズに対応するため、有識者、企業に在籍している委員の意見を参考に教育課程の編成を行う。その為に「教育課程編成委員会」を設置し、積極的に教育課程の改善と工夫を行う。また、委員会を定期的に開催することで、学生の習得状況や実態も考慮しながら、より実践的な職業人を養成できる効果的な教育方法を検討、討議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年に2回実施される教育課程編成委員会で実践的、専門的な職業教育の実施に向け必要な情報の収集と提言、審議を行い実践教育課程の編成に活かす。

教育編成委員会では、次の事項について審議を行う。

- ・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項
- ・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項
- ・学則の教育課程に関する事項
- ・実習・演習に関する事項
- ・その他、職業教育に関する事項

以上の審議の提言、意見を活用しカリキュラム検討委員会で実施に向け検討する。複数回の会議を経て最終案を職員会議で審議し、校長の決裁を経て実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
武田 亘明	社会福祉法人 旭川旭親会 きたのまちジョブリハセンター DX推進室長	令和 5年11月 1日～ 令和 7年10月31日(2年)	②
小野 哲雄	国立大学法人 北海道大学大学院 情報科学研究院 特任教授	令和 5年11月 1日～ 令和 7年10月31日(2年)	②
大竹 正亮	株式会社ジャパンテクニカルソフトウェア シニアアドバイザー	令和 5年11月 1日～ 令和 7年10月31日(2年)	③
小林 仁	学校法人桑園学園 札幌情報未来専門学校 校長	令和 5年11月 1日～ 令和 7年10月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年11月30日 17:00～18:00

第2回 令和6年3月26日 14:00～15:45

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業が求める人材を育成できるよう、より実践的な演習課題を設定し、カリキュラムの見直しを行った。

今後は、エンジニアとして要件定義や設計、マネジメントができる総合力を身に付けられるよう

実習の強化を行っていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・システム開発を実務としている企業と連携し、現場で必要とされる実践的な知識とスキルを修得できるようにする。
- ・実務担当者から業界の最新情報や過去の経験をもとにした実例を解説することで学生が将来の仕事のイメージを明確に持つようになり就業意欲を向上させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・連携企業によるプログラミング手法
- ・実務担当者から業界の最新情報や過去の経験をもとにした実例を解説することで、学生が将来の仕事のイメージを明確に持つようになり、就業意欲を向上させる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
システム検証Ⅰ	非常勤講師契約による講師派遣	設計書を元に作成物をトレースしていく。システムをトレースしながら検証し、検証した結果を新しい設計書として完成させる。	(株)シンクスバンク
システム検証Ⅱ	非常勤講師契約による講師派遣	システムテストに重点を置き、テスト計画を立て、これまで学習してきたテスト技法を実践してバグを発見する。	(株)シンクスバンク
システム改修	非常勤講師契約による講師派遣	上流工程の理論を理解し、各設計書(仕様書)を読み解き、簡易なコンソールアプリケーションの設計方法について学習する	(株)シンクスバンク
アプリ制作Ⅰ	非常勤講師契約による講師派遣	JavaScriptの基本構文について理解し、スマートフォンアプリケーション開発を学習する	(特非)FOREST
ゲーム制作Ⅰ	非常勤講師契約による講師派遣	Unityを使用し、C#におけるゲームプログラミングの基礎、関数の使用方法などを学習する	(特非)FOREST

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員は年度の業務計画書に基づき、年間研修スケジュールを定めて計画的に受講する。IT業界や企業が求める実務知識や効果的な指導方法を習得し、教育内容及び学生の指導方法に反映させることを目的とする。

研修としては、自己啓発、技術研修、教育指導方法に関する研修、技術・ビジネス展示会見学、その他能力向上にふさわしいものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: ホームページ開発に必要なコンテンツ制作と評価方法
 期間: 令和6年7月28日
 内容: Webコンテンツの画面入出力や、PV数向上のための設計について
 連携企業等: (特非)FOREST
 対象: 専任講師

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 北専各連教職員認定研修会 総合自由科目Ⅰ
 期間: 令和6年7月29日
 内容: ダイバーシティとインクルージョン社会の教育を考える
 連携企業等: 北専各連
 対象: 専任講師

研修名: 北専各連教職員認定研修会 青年心理学
 期間: 令和6年7月30日
 内容: 疾風怒濤の心への対応
 連携企業等: 北専各連
 対象: 専任講師

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: オブジェクト指向の教授方法について
 期間: 令和6年7月
 内容: プログラミング初学者が躓く、オブジェクト指向の考え方と理解について指導方法を探る
 連携企業等: (株)ジャパンテクノロジーズ
 対象: 専任講師

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 北専各連教職員認定研修会
 期間: 令和6年7月
 内容:
 連携企業等: 北専各連
 対象: 専任講師

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

業界団体・教育界・OBで構成される学校関係者評価委員会を設置し、当学園の自己点検、自己評価委員会にて評価された内容に基づいて、改善、指導、支援を行う。その後、自己点検、自己評価の報告書を作成し、ホームページにて公開するとともに、具体的な取組の改善をはかる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果・単位取得・学生満足度
(5) 学生支援	学生支援・奨学金
(6) 教育環境	教育環境・実習環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務状況・経営計画
(9) 法令等の遵守	法令等の順守
(10) 社会貢献・地域貢献	成果
(11) 国際交流	留学生受入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者の指摘により実務環境を意識した実習設備の導入を実施した。また、専門科目の充実を図るため、各分野に長けた教員の確保を行い質的向上を目指した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大野 俊	一般社団法人 北海道リージョナルリサーチ 監事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	業界団体関係者
小賀 聡	札幌大学非常勤講師、IT企業代表	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	業界団体関係者
英 大典	札幌情報未来専門学校 非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/>

公表時期: 令和6年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校は、教育機関として、業界、地域樹民に教育活動や学校運営情報を提供するとともに、学生、父母に対しても広く情報を発信する。実践的、専門的なITエンジニアの養成をするにあたり、業界や地域社会に当校の評価と理解を促し、社会的な信頼と地域の基幹として存在を得ていくことを目指す。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、教育目標、法人設置情報の開示
(2) 各学科等の教育	入学者に関する情報、進級、卒業条件等
(3) 教職員	組織、教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取り組み、実習時間、実習環境
(5) 様々な教育活動・教育環境	課外活動、ボランティアの促進
(6) 学生の生活支援	学生支援、奨学金制度
(7) 学生納付金・学修支援	学生納付金の取り扱い、経済的支援措置
(8) 学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書
(9) 学校評価	学校自己評価報告書による改善方策
(10) 国際連携の状況	留学生受入れ準備
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程ITシステムエンジニア学科学科) 令和6年度																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			Java I	演算子、判断、繰り返し、配列、メソッドとは、などの基本文法および基本アルゴリズムについて学習する	1前	150	7	○			○		○		
2		○		HTML演習 I	Webページ作りの基本知識から簡単な応用テクニックまで、ステップバイステップで学ぶ	1前	60	3	○			○			○	
3		○		経営戦略・管理	基本情報技術者試験で問われるストラテジ(戦略)手法について学習する	1前	30	2	○			○		○		
4		○		2Dグラフィック	Illustrator と Photoshop の基本操作を学び、デジタルコンテンツのグラフィック素材を作成できる能力、画像修正、加工が確実にできるようになることを目標とする	1前	60	3	○			○			○	
5			○	Excel演習	Excelの基本操作から始め、表計算、グラフ作成、データ抽出機能について、順次学習する	1前	60	3	○			○			○	
6		○		ハードウェア	コンピュータ本体の動作原理や内部構造、入力装置や出力装置などの周辺機器に関する構造や種類など、コンピュータを構成する装置に関して学習する	1前	30	2	○			○		○		
7		○		情報基礎対策	コンピュータの基礎知識の中で、2進数等の基数変換、浮動小数点数の考え方、演算処理と命令実行の計算などについて学習する	1前	30	2	○			○		○		
8		○		ソフトウェア	ソフトウェアの基礎知識(OSの役割や機能)と、ソフトウェアを作成(設計)する手法について学習する	1前	30	2	○			○			○	
9		○		ネットワーク	基本情報技術者試験で問われるネットワークの構造と用語を学習する	1前	30	2	○			○		○		
10		○		セキュリティ	基本情報技術者試験で問われるセキュリティの構造と用語を学習する	1前	30	2	○			○		○		
11		○		データベース	基本情報技術者試験で問われるデータベースの概念、構造と用語を学習する	1前	30	2	○			○		○		
12		○		アルゴリズム I	フローチャートの記号の意味や使い方、アルゴリズム基本構造やデータ処理の基本をフローチャートでの書き方を学習する	1前	30	2	○			○		○		
13	○			Java II	オブジェクト指向とは、継承、クラスの派生と多様性、抽象クラス、インタフェース、例外処理等について学ぶ	1後	150	7	○			○			○	

30		○	Webマーケティング	Webマーケターとしてマーケティング方法にあったWebページの構成やランディングページの構成ができ、その結果がどのようになったのかを分析することについて学ぶ	2前	60	3		○	○	○							
31		○	AI概論Ⅱ	「AI概論Ⅰ」に引き続き、AIや機械学習の考え方や実用例を学習し、Pythonを用いた基本的なアルゴリズムを組み立てる	2前	30	1		○	○	○							
32		○	国家試験対策Ⅱ	「国家試験対策Ⅰ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に着ける	2前	30	2	○		○	○							
33	○		システム検証Ⅰ	上流工程の理論を理解し、各設計書（仕様書）を読み解き、簡易なコンソールアプリケーションの設計方法について学習する	2前	60	3		○	○					○	○		
34		○	Word演習	Wordの基礎となる設定を理解し、ビジネス文書や見栄えのする文書を作成・編集するための高度な技術を学習する	2前	60	3		○	○	○							
35	○		ビジネスマナーⅠ	就職内定を取得するために必要なビジネスマナーや一般常識について、就職活動の開始前から対策を行う	2前	30	2	○		○	○							
36		○	コミュニケーションⅠ	システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	2後	30	2	○		○	○							
37		○	グループワークⅠ	他学年とのコミュニケーションからより実践的なチームビルディングとマネジメントを学習する	2後	30	2	○		○	○							
38	○		JSP・Servlet演習	JSPおよびサーブレットを利用し、Webアプリケーションの仕組みとシステム開発工程について学習する	2後	60	3		○	○					○			
39		○	ゲーム制作Ⅰ	Unityを使用し、C#におけるゲームプログラミングの基礎、関数の使用方法などを学習する	2後	60	3		○	○					○	○		
40		○	Access演習	データベースの基本から「テーブル」「クエリ」「フォーム」「レポート」といった主要機能、関数やマクロについてAccessの利用方法・操作技法を学習する	2後	60	3		○	○	○							
41		○	HTML応用Ⅰ	JavaScriptの基礎知識とjQuery、CSSを学習し、webサイトにおいて動きのあるサイトを作成する方法を身に着ける	2後	60	2		○	○					○			
42		○	システムマネジメント	プロジェクトでのシステム開発における、企画・提案・見積・スケジュールのノウハウを学習する	2後	60	3		○	○	○							
43	○		システム検証Ⅱ	既存コードの仕様書や部分的な設計書（外部・内部）の作成方法、テスト手法を基にしたテストの実施方法を学習する	2後	60	3		○	○					○	○		
44		○	グラフィック応用Ⅰ	これまで「2Dグラフィック」、「3Dグラフィック」で学習した基礎知識をもとに、より洗練されたデザインテクニックについて学習する	2後	60	2		○	○					○			
45		○	AIプログラミングⅠ	AI、データサイエンス、IoTの分野の基本的な考え方を学習する	2後	30	1		○	○					○			

46		○	プレゼンテーションⅠ	プレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力および自己表現能力を高め、就職試験や面接に向けた対策を行う	2後	60	3		○	○	○							
47		○	一般教養Ⅰ	就職試験における一般常識問題で頻出される基礎的な問題を学習する	2後	30	2	○		○	○							
48		○	国家試験対策Ⅲ	「国家試験対策Ⅱ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に着ける	2後	30	2	○		○	○							
49	○		就職準備	就職活動のため、自己分析や企業研究を行い、自分の理想とする職業像や、イメージし、就職試験対策を行う	2後	60	4	○		○	○							
50	○		Java応用	これまで学習してきたJavaの技術と、本科目を通してより実践的なJavaの技術を学びオリジナル制作を行う	3前	60	2			○	○	○						
51	○		システム改修	仕様書をもとに画面設計、プログラム詳細設計を行いコーディングし、テスト工程での検証方法について学ぶ	3前	60	3		○	○					○	○		
52		○	アプリ制作Ⅰ	JavaScriptの基本構文について学習し、スマートフォンアプリケーション開発を学習する	3前	60	3		○	○					○	○		
53		○	セキュリティ実践演習	これまで学んだネットワーク、サーバ、セキュリティの知識を実際にどのように活用するか、実機を用いて学習する	3前	60	3		○	○	○							
54		○	AIプログラミングⅡ	AIプログラミングⅠで学んだPythonの技術を用いてオリジナル制作を行う	3前	30	1		○	○	○							
55		○	データマイニング	データアナリストとしての基本知識と手法、AIとIoTの元となるデータを如何にして収集し活用するかを学び、データを扱う人材となることを目的とする	3前	30	1		○	○	○							
56		○	国家試験対策Ⅳ	「国家試験対策Ⅲ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に着ける	3前	30	2	○		○	○							
57		○	グループワークⅤ	システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	3前	30	2	○		○	○							
58	○		就職支援	履歴書、エントリーシートの書き方、面接試験や一般常識、SPIなど就職活動における様々な対策を行う	3前	60	4	○		○	○							
59		○	HTML応用Ⅱ	今まで習ったWebに関する知識、HTMLのコーディングスキルを活用し、独自のWebサイト作成を行う	3前	60	2			○	○							○
60		○	グラフィック応用Ⅱ	レイアウトの基本ルールや見る人のことを考えたデザイン、配色やフォント等、より効果的なデザインを取り入れた作品づくりを行う	3前	60	2			○	○							○
61		○	コミュニケーションⅢ	システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	3前	30	2	○		○	○							

62	○	一般教養Ⅲ	就職筆記試験、適性検査に出題されやすい一般常識問題や、漢字書き取り、計算問題、SPI問題について学習する	3 前	30	2	○		○	○								
63	○	総合制作	これまで学んだことの集大成として、プロジェクトを立ち上げてシステム開発に取り組む。チームメンバーと協力してシステムを完成させる	3 後	240	8			○	○								
64		○	コミュニケーション応用	グループワークを通して相手に自分の気持ちや考えを伝える力を身に付ける。社会人として円滑な対応をするための敬語の使い方、挨拶の仕方なども学ぶ	3 後	30	2	○			○	○						
65		○	アプリ制作Ⅱ	「アプリ制作Ⅰ」で学習した内容を活かし、さらに深い技術を身に付け、「アプリ制作Ⅰ」で制作したアプリよりもさらに高度な作品の完成を目指す	3 後	60	2				○	○						
66		○	プレゼンテーションⅡ	「プレゼンテーションⅠ」で学んだ内容を基に、コミュニケーション能力および自己表現能力を高め、就職試験や面接に向けた対策を行う	3 後	60	2				○	○						
67	○		ビジネスマナーⅡ	前半は就職内定を取得するために必要な要素を練習し、後半は就職後の職場における様々なシーンを想定し、実際に体を動かして練習する	3 後	30	2	○				○	○					
68		○	基本情報技術者受験対策講座Ⅰ	基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全 学 年	30	2	○					○	○				
69		○	応用情報技術者受験対策講座Ⅰ	応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全 学 年	30	2	○					○	○				
70		○	Javaプログラミング受験対策講座	サーティファイ主催Javaプログラミング能力認定試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全 学 年	30	2	○					○	○				
71		○	基本情報技術者受験対策講座Ⅱ	基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全 学 年	30	2	○					○	○				
72		○	応用情報技術者受験対策講座Ⅱ	応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全 学 年	30	2	○					○	○				
73		○	MCP受験対策講座	マイクロソフト認定資格プログラム(MCP:Microsoft CertificationProgram)の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行う	全 学 年	30	2	○					○	○				
74		○	MOS受験対策講座	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS:Microsoft OfficeSpecialist)の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行う	全 学 年	30	2	○					○	○				
合計					74	科目	185 単位 (単位時間)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	各学科に修業年限以上在籍し、必修科目と選択科目を合わせて3年間で2,700時間以上で履修所定の単位数以上を修得すること。	1学年の学期区分	前・後期
履修方法:	前・後期15週のうち、それぞれ80%以上の出席および単位認定試験の受験結果について、単位認定会議における判定によって単位を認める。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。